

## 平成 26 年度 研究成果報告書

### Research Achievement Report FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅡ講座 准教授
氏名 Name	宮脇聡史
専門分野 Academic Field	フィリピン地域研究

主たる研究テーマ Principal Research Subject	フィリピン・カトリック教会の歴史観・社会観と政治関与
--	----------------------------

昨年度のフィリピン中部における大規模な台風被災への応答を踏まえ、今年度は、被災からの復興状況の把握と、この復興に関連するカトリック教会の動静の観察に重点を置くこととなった。6月には「宗教と社会」学会にて予備調査報告を行い、これを踏まえ、8月には被災地を訪問し、現地において復興状況の把握と共に、教会関係者を中心に、復興と教会、信仰などのかかわりについて聞き取りを行った。

また並行して、今年度政教関係とのかかわりで大きく現地で報じられた **Reproductive Health** 法案の成立過程についても、複数の研究者と共同で調査の準備に入ることとなった。これまで私は、カトリック教会の政治社会関与の文脈の中で事例的に取り上げることはあったが、法制過程や人々のせいに関する意識と併せて包括的に取り上げたことはなく、他方でそのような包括的研究が過去になされた形跡もなく、関連する運動による声明やマスメディアの報道の行きを超える分析はなされてこなかった。主題が複雑多岐にわたるため、来年度に本格的に展開すべく、関連の資料収集を続けている。

フィリピン史に関しては主に教会の歴史観を分析するためと、同時に大学教育における準備を兼ねて行っているが、今年度は特に、戦後70年を迎えて、アジア太平洋戦争におけるフィリピンの経験についての、特に住民の生活レベルからの歴史像の再構築という問題に関わり、関連文献を用いた授業の実施と共に、2月のマニラ市街戦や南部ルソン地方における住民の集団殺害事件等に関わる現場を訪問し、研究会に参加、様々の意見交換を行った。

博士論文の改訂と出版に向けての作業は引き続きの課題である。「フィリピンの政教関係と教会の世界観」という当論文の主題の周辺では、今年度もフィリピン地域研究の代表的な学会誌 **Philippine Studies** の特集を始め、様々の学会発表や論考が出されているが、当論文のような包括的な研究は表れていない現状であり、この論考を公けに問う責任を再確認した今年度でもあった。